

## Abstract

## ヒト免疫不全ウイルス (HIV) 感染血友病患者における HIV 疾患進行の予測因子としてのヒト白血球抗原 (HLA) : 22 年間の追跡調査

HLA antigens as predictors of disease progression in HIV-infected haemophilia patients (a 22 years' follow up)

CHR. Papasteriades, J. Economidou, H. Pappas, V. Kapsimali, K. Psarra, O. Katsarou, A. Karafoulidou and T. Mandalaki

本研究の目的は、ヒト免疫不全ウイルス (HIV) 感染陽性のギリシャ系血友病 A 患者 118 例を対象に、HIV 疾患の進行に対するヒト白血球抗原 (HLA) クラス I 抗原やクラス II 抗原などの遺伝的因子および他の臨床・検査パラメーターの影響を評価することである。これらの患者は、HLA が既にタイピングされており、セロコンバージョン以降 22 年間追跡した。追跡終了時に、これらの患者を AIDS への進行が速やかであった患者群 (22 例) (セロコンバージョン以降、中央値で 6 年) と無症候性で最長 22 年間 (中央値 15 年) A2 分類に留まった患者群 (33 例) の 2 群に分けて比較した。検討の結果、両群におけるセロコンバージョン時の年齢やベースライン時の CD4 陽性 T 細胞数に有意差はみられなかった。しかし、一部の HLA の頻度については、両群間に差が認められた。AIDS へ速やかに進行した患者群では HLA-A28, -B21 および -DR3 の頻度が高く、これらの差は統計学的に有意であった (それぞれ、 $p = 0.02$ ,

0.04 および 0.05)。古典的な HLA タイピング法に基づくこれらの所見は、他の研究で報告されている観察所見を確認するものであるとともに、血友病における HIV 感染の進行に遺伝的背景が影響するという説を支持するものであった。

**Table 3.** HLA alleles associated with relative resistance or susceptibility to HIV disease progression<sup>§</sup>.

Resistance alleles or allele combinations
A9, A25, A26 + TAP2.3, A32, B5, B14, B18, B27, B51, B57, Bw4, DR6, DR7, DR13 and DRB1 * 0702 + DQA1 * 0201
Susceptibility alleles or allele combinations
A1 + B8 + DR3, A9, A11, A23, A24 + (TAP2.1 or TAP2.3), A28 + TAP2.3, A29 + TAP2.1, B8 + TAP2.1, B35 + Cw4, B37, B49, B60 + (TAP2.1 or TAP2.3) and DR2
DRB1 * 1300 + DQA1 * 0102 + DQB1 * 0604
DRB1 * 1400 + DQA1 * 0101 + DQB1 * 0503
DRB1 * 0401 + DQA1 * 0300 + DQB1 * 0301 + TAP1.2
DRB1 * 1200 + DQA1 * 0501 + DQB1 * 0301 + TAP1.2
Frequently exposed HIV-seronegative persons
A2, A28, DR13

<sup>§</sup>Malkovsky (1996).

\*, international nomenclature symbol.